



1年生が多文化共生の学習をしました

十八中では「誰もが安心して過ごせる学校や社会をめざす」ことをテーマに学習を続けています。10月には全校でLGBTQ当事者の井上鈴佳さんと、視覚障害のある佐木理人さんにお話を伺い、上のテーマについて考えました。

1年生は引き続き、外国から日本に来た人や外国にルーツがある人たちについて、暮らしの中での生きづらさや、ともに暮らすうえで大切なことを考えたり、教えてもらったりしました。

その中で、A先生の友人=コロンビア(南米)在住のユーチューバーBさんからは、「日本では周りと違うものを受け入れない人もいますが、いったん受け入れてみて、どうなのかを自分の頭で考え、かみくだいて自分の結論を出してほしい。この思考を繰り返すことはすごくいい経験になるし、人生を豊かにしてくれますよ。」というビデオメッセージをいただきました。

また、11月には韓国出身の姜秀京(カン スギョン)さん、エクアドル(南米)出身のフロール カラビア サンティアゴさんが十八中に来られ、それぞれの国や文化を紹介された後、日本での暮らしの中で感じたことを対談形式で伝えてくださいました。



今暮らしている豊中での生活は、お二人とも「みんな親切で、特に困ったりすることはありません。」とおっしゃっていましたが、来日された当初は文化の違いにとまどったり、「外国人」ということでの周りの人の対応に、つらい思いをしたり、腹が立ったりした経験もあったそうです。

最後に「外国の人と、これから仲良くしていくための秘訣(ひけつ)」を教えてくださいました。「いろいろな違い=区別はあるけど、差別はあってはいけないこと。文化や言葉が違ってても、住むところが同じでも違ってても、人間として尊敬できる場所や素晴らしさがあると思います。「〇〇人」とか肌の色ではなく、人を人として見てほしいです。」(サンティアゴさん)

「外国人という視点ではなく、人として見てほしい。困っていたら助ける、という心をもってほしいなと思います。」(スギョンさん)

「外国人はきつこうだ」という決めつけや偏見ではなく、人としてお互いのことを知っていきこう(=受け入れる)という心で接することが、安心な生活につながるのだと感じられた時間になりました。



佐木 理人さんからお返事をいただきました

先月「『見えない・見えにくい世界』もおもしろい」というテーマでお話いただいた佐木理人さんが、みなさんからの質問へのお返事をくださいましたので紹介します(裏面に掲載)。

実はユーチューブで、佐木さんと、女優の のんさんが対談をしている動画があります。対談で「点字毎日」の印象を聞かれたのんさんが、次のように答えています。

「『障害者などとひとくくりせず、一人の人間として見ればどんな問題も他人事とは思えなくなるだろう』という一文(佐木さんが書いた記事)にすごくハッとさせられて、自分事として考える時にお互いが尊重し合って生活できるような社会になったらいいなと思いました…」

佐木さんの書いた記事や、のんさんの感想が、左のサンティアゴさんやカン スギョンさんの言葉と重なることに驚きました。みなさんも一度、佐木さんとのんさんの対談をユーチューブで見てみてください。「のんと毎日新聞記者が語る『点字毎日』」で検索してください。(約10分の短い動画です)

後期生徒会が動き出しました！



10月28日には月1クリーン作戦で、中庭の雑草抜きやゴーヤのネットの片付け、落ち葉清掃などに取り組みました。執行部を支える多くの人たちも加わり、ワイワイと楽しく清掃活動に取り組みました。11月7日からは「あいさつ運動」。寒さに負けず、のぼりを持ってあいさつに取り組んでいました。

地域の方に喜んでもらえました

10月29日に吹奏楽部が螢池バル(ハロウィンの催し)に出演。駅前路上ライブで2曲披露し、多くの観客から大きな拍手をもらいました。

11月13日には太鼓部が「刀根山公民分館50周年」の催しに招待され、力強い太鼓を披露しました。両クラブとも3年生が引退しての初の発表でしたが、1,2年生が頑張りました。地域の方も喜んでおられ、良い地域連携になりました。



佐木 理人さん(毎日新聞論説委員、「点字毎日」記者)から届いた質問への回答

問1 買い物はどうしているのですか？

買い物ですが、普段必要なもののほとんどは、妻に買ってきてもらいます。一人でコンビニに行き、店員さんにほしいものを伝えて棚から取ってきてもらい買うこともあります。画面の内容を音声で読み上げてくれるソフトが入ったパソコンでインターネットショッピングすることもあります。一緒に外出してサポートしてくれるガイドヘルパーという仕事をしている人と買い物をすることもあります。

問2 トイレやお風呂はどうやって使いますか？

自宅のトイレやお風呂は一人で不自由なく使えます。ただ、外出先で初めて使うトイレやホテルの大浴場などは、中の様子が分からないので困ります。迷いながら使ったり、そばにいる人に案内してもらったりすることがあります。

自宅のお風呂は、危ないと感じたことはありません。ただ、初めて入る大浴場や温泉などは、中の様子が分からず、迷ったり、段差でつまずいたり滑って転びそうになったりします。そのため、目の見える人と一緒に入るようにしています。

問3 パソコン画面の操作はどうやってするのですか？

パソコンのキーボードのすべてのキーの場所は、覚えています。ほとんどの操作は、マウスの代わりに上下左右の矢印キーやタブキー、エンターキーなどを使ってできるんです。

問4 私たちが書いているこの文章はどうやって読むのでしょうか？

皆さんからの感想は、点字に直してもらい、それを読んで質問にお答えしています。

問5 点字にはカタカナ・漢字・英語はありますか？

点字には、ひらがなとカタカナの区別はありません。点字の漢字はあるのですが、使っているのは、ほんの一部の人だけです。

点字にも英語はあります。点字はもともとフランスで考えられました。日本語の点字は明治時代にできたんです。東京の盲学校の先生と生徒がフランスで生まれた点字をもとに話し合っただけです。世界の多くの国の言葉に点字があります。私は英語の点字を高校生になってから本格的に勉強しました。

問6 現金でなく、電子マネーで支払うとおっしゃっていましたが、時計でどう操作されているのか知りたいです。

私は、いつも「アップルウォッチ」という腕時計を付けています。アップルウォッチを使うためのアプリがiPhoneに入っています。そのアプリの内容は音声読み上げの機能で確かめることができるんです。アップルウォッチは、コンビニなどのレジでタッチすると、買い物できま

す。残っているお金の額を確かめたり、追加したりも音声読み上げの機能で自分でできるんです。

問7 盲学校ではどういう風に授業を受けたのか知りたいです。

盲学校の生徒も点字や大きな文字で書かれた教科書を使って勉強しています。体育の授業も運動会もあります。皆さんと大きく違うのは、黒板をあまり使わないことと、生徒の数がとても少ないことでしょうか。

問8 目の見えない人の聴力が、見える人の聴力とどう違うのか知りたいです。

目が見えないからと言って、聴力が皆さんよりとてもいいということはないと思います。ただ、音に敏感だったり、音を聞いた時に、それが何の音なのかの想像ができたりすることがあるかもしれません。音を手掛かりに生活していますし、いろいろな音の特徴を覚えているからではないでしょうか。

問9 どんなアニメが好きですか？

好きなアニメは「ドラゴンボール」や「ガンダム」、「夏目友人帳」、「バクマン」などいろいろあります。今人気の「SPY×FAMILY」も好きです。アニメは、登場人物の声の特徴的で覚えやすく、いろいろな音が工夫されているので場面も想像でき、ストーリーを楽しんでいます。

問10 目が見えない・見えにくいということではじめなどにあったことはありませんか？

小学校の頃は、目が見えにくいということで、からかわれたりばかにされたりすることが少しだけありました。でも、一緒に過ごしているうちに、そうしたことはなくなりました。私がいろいろなことに一生懸命になっているのを見て、助けてくれるようになったんです。

中学の時はいじめられたことはありません。ちょっと不良っぽい友達と廊下でぶつかったことがあります。彼は全く怒らず「おれもけんかをして片目が見えなかったことがあんなねん。目が見えにくいと大変だな」と声をかけてくれたことを覚えています。

問11 「目が見えない・見えにくい世界もおもしろい」というタイトルですが、どうしておもしろいと感じるのかよくわかりません。

「見えない・見えにくい世界もおもしろい」というタイトルを付けながら、はっきりお話しせず、申し訳ありませんでした。目が見えなかつたり見えにくかつたりすると、楽しいことやおもしろいことが何もないのではと思うかもしれませんが、しかし、目が見えない・見えにくい人でも、いろいろなことを楽しんでいます。例えば、全く目が見えない人で、ジグソーパズルが大好きな人がいたり、的に矢を当てる弓道に打ち込んでいたりする人がいたりするんです。そんな人たちからいきいきとした話を聞くと、「目は見えなかつたり見えにくかつたりするよりも見えた方が便利だつたり楽しかつたりするかもしれないけれど、目が見えない・見えにくい世界もおもしろいなあ」とうれしくなります。視覚に障害のある人たちが生活する中で工夫しているいろいろなことを知ってもらくと、「見えない・見えにくい世界のおもしろさ」に出会えると思います。